

番組審議会議事録

開催年月日：平成 24 年 11 月 29 日(木) 16 時 00 分～17 時 00 分

開催場所：アクア木更津 8F 会議室

委員の出席 委員総数 7 名

出席委員数 6 名

出席者の氏名： 藤浪陽四郎（委員長）、早川令子（副委員長）、渡辺知尚、
山口貴史、平野 満、磯貝弘一

欠席委員の氏名： 村重正明

放送事業者側出席者： 石村比呂美、池田和隆、兼平健一

1. 議 題

特別番組 かずさエフエム オータムスペシャル

第 9 回木更津こどもまつり（11 月 24 日放送）について

（藤波 委員長）

子供達のラジオ DJ はファンを増やすいい試みだと思いました。

電話レポートもいい試みでしたが、レポーターがもう少しゆっくりと話しをして、リスナーに聞いてもらおうと云う気持ちが必要かなと感じました。

小生は弁天町で生まれ育ちましたので、「魚店」「さかんだな」の事は良く知っておりますが、魚徳や権九などの大きな魚屋さんが並んでいたことなど、もう少し詳しく説明を入れると、新住民も興味を持ってもらえる内容になったのではないのでしょうか。

また、聞いて頂くための前宣伝（番組予告）を数回放送して、リスナーの方々を引き付ける必要もあるのではと思いました。

今回の特別番組は素晴らしい内容でしたので、今後とも“地域情報発信基地”としての一翼を担っていただき、皆で盛り上げて、この木更津こどもまつりの特番を木更津の名物にしたいものです。

(磯貝 委員)

全体の印象として、「会場内の情景が良く分かる」という印象を持ちました。

昭和 30 年代の木更津、日本を再現しようとするイベントのコンセプトが、今回の生放送でよりよく表現できていて、会場での各出演者の表情がインタビュアーに引き出され、また、子供達の出店する手作りの商品等の話にも引き寄せられて、昔懐かしく、タイムスリップしている感じがしました。

こども DJ 体験ですが、会場の人へのインタビューをしてもらっても良いのではないかと、思いました。

このほか、同じ日に行われていた「木更津さかんだなまつり」の会場の様子も電話レポートで伝えていましたが、番組を途中から聴いた人には、「木更津こどもまつり」との関連がよく分からないのでは、とも思いました。

(平野 委員)

木更津市長や実行委員長の生の声、児童に番組に入ってもらおう企画は、良いと思いました。

ただ、4 時間の生放送はテレビと違って長いな、と感じました。実況は、2 時間くらいが限度ではと思います。

(早川 副委員長)

生中継の良さがよく出ていると最初に感じました。聴いているほうもそこにいるようで、とても楽しかったです。取材・インタビューをしている方達自身が、このイベントを本当に楽しんでいらっしゃるの、自然に伝わったからだと思います。

会場がどれほどの広さのところだなさったのか、私には分かりませんでした。が、(地名をお聞きしても木更津の地理が分からないので、想像できませんでした) 会場にいる方達もあの放送を聞いていて、どこで何をしているか良くわかり、そういう方達にとっても便利で活用できるな、と思いました。

1 つ残念だったのは、向山さんが電話レポートしている音量が小さくて、ちょっと聞きにくかったです。もっと楽に聞いていただける音量だったら良かったと思いました。

(山口 委員)

4 時間にわたる生放送はお疲れだったことと思います。そうしたなかでも、木更津市長や参加している子供たちへのインタビューなどを通じて、「祭りをやってるな」といった臨場感が伝わっ

てきて、聴いているリスナーもお祭りに参加しているような気持ちにさせてもらった放送だと思いました。

また、少し聴き取りづらいところもありましたが、会場各所からの中継もあり、あちこちに分散してイベントが開催されている様子もよく分かりました。

2人の女子児童が生き生きと自分の将来の夢を語り、紹介してところは、いかにもこどもまつりだなと楽しく聴きました。

おにぎりを50円で売っていたお父さんも、夜の暗いうちから準備してきたとのことで、父兄の大変さもよく伝わり、縁の下からも祭りを盛り上げている様子がよく伝わってきました。

こういうことができるかどうかは分かりませんが、いわゆる双方性というのか、現に祭りに参加している方々から意見・感想をもらって番組に入れられれば、楽しさが倍増するのではと思います。

(渡辺 委員)

今回の放送は、サテライトスタジオを設け、地域のイベント情報を現場から発信する取り組みでありましたが、放送を聴く側にも「木更津こどもまつり」の楽しさなど、イベント現場の臨場感が伝わっていたと思います。

また、電話を利用して別会場で開催されていた「木更津さかんだなまつり」の様態を伝えるなど、放送の随所に工夫が見られました。

さらに、子供達をはじめ、多くのイベント関係者や見物人など、様々な立場の人が番組に出演して、会場の案内をしたりメッセージを発信することで、地域のコミュニティエフエムとして、番組自体をより身近に感じる事ができたと思います。

(放送事業者 石村)

今年のかずさエフエムは、収録特番や現場からの生中継を多く実施しました。収録特番としては、木更津市民会館や君津文化ホールでの地元主催のコンサートの数々、生中継番組として、木更津港まつり花火大会、アクアラインマラソン7時間生放送、エフエムかしまとの共同制作で京セラドーム大阪から生中継した社会人野球日本選手権大会、そして、木更津こどもまつり・・・と、スタジオを出て地域の声を発信する1年であったかと思えます。

初めての取り組みも多く、手探りで取り組んだところもあり、多くの課題も残りますが、弊社の大きな力となったのではないかと思います。

この度、審議委員の皆様には、この中から「木更津こどもまつり」をご審議頂きました。技術的な面からは、レポーター用機材の調整。編成面では、番組時間の検討。制作面では、同時開催している2つのイベントの関連や、まつり会場の時代背景の説明、子供DJ体験のバリエーションをもたせる等、確かに・・・とうなずけることが多く、是非とも次回の参考にさせて頂き、番組に反映させたいと思っております。

今後も、「地域情報発信基地」という姿勢を変わらぬ想いとして、皆さんの生の声を電波にのせていきたいと思えます。また、委員の一人の御発言のように、木更津こどもまつりをはじめとして、各種特番が木更津のひとつの名物になるように頑張つて参ります。